

令和 7 年 9 月 2 4 日

小千谷市教育委員会
教育長 松井 周之輔 様

小千谷市立小中学校の在り方検討委員会
委員長 遠藤 英和

小千谷市立小中学校の在り方について（答申）

令和 7 年 2 月 2 0 日付小教第 9 6 5 号で諮問のありました事項について、小千谷市立小中学校の在り方検討委員会において審議しましたので、別紙のとおり答申します。
なお、要旨は下記のとおりです。

記

【要旨】

1. 小学校及び中学校における学校の適正な規模

児童生徒が多様な学びの機会を得られ、健全な人間関係を築き、教育の質を維持するために望ましい学級数について。

小学校 複式学級を解消できる規模（学級数）

- ・ 統合後当分の間は複式学級が発生しない

中学校 全学年でクラス替えが可能となる規模（学級数）

- ・ 全学年でクラス替えが可能
- ・ 全ての教科（9 教科）で免許を持つ専門の教員を配置

2. 小学校及び中学校における適正な通学距離及び通学時間

児童生徒の安全面や負担面、交通手段等を総合的に勘案した適正な通学距離及び通学時間について。

【原則】 通学距離 下記通学時間を勘案した通学距離

通学時間 小・中学校ともにおおむね 1 時間以内

- ・ 地理的条件や冬期間の気象状況を考慮
- ・ スクールバスの活用

3. 将来を展望した教育環境の在り方

市全体を考えた魅力あふれる望ましい教育環境の整備について。

○ 多様な価値観、文化に触れ、生きる力を育む環境の整備

- ・ 集団による教育活動は、児童生徒が社会性や協調性を育む上で重要であり、その機会を保障すること。
- ・ 学校規模が大きくなったとしても、児童生徒に寄り添った教育支援や地域との交流といった小規模校がもつ「よさ」を維持できる運営体制を構築すること。

○ 小千谷市の自然、歴史、人材をいかした、ふるさとに誇りを持てる教育

- ・ 児童生徒が郷土の歴史や文化を学び、地域への誇りや愛着を育めるような教育を実践すること。そのために、地域住民が教育活動に参画する「地域と一体となった学校教育」をより推進すること。

○ 通学の安心安全の確保

- ・ 学校の適正配置で通学区域が広がる場合、地域と連携し、スクールバスの計画運行と運転手確保に努め、児童生徒の安心安全な通学を最優先に確保すること。